

第2回アジア CCUS ネットワークフォーラムフォーラム

西村康稔経済産業大臣 挨拶

2022 年 9 月 30 日

資源エネルギー庁

1. はじめに

- 経済産業大臣の西村康稔です。第2回アジア CCUS(シーシーユーエス)ネットワークフォーラムの主催者として、ご挨拶申し上げます。
- まず、本フォーラムにメッセージをお寄せ頂いた各国大臣、会場に起こし頂いた各国代表の皆様、そのほか、本フォーラムの開催にご尽力頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。
- 気候変動への対応は、全世界が共に取り組むべき喫緊の課題です。経済成長との両立のためには、排出削減を経済の成長・発展につなげる GX(ジーエックス)の実現が不可欠です。
- この考えの下、日本は、アジア等の新興国の経済成長とカーボンニュートラルの同時実現に向け、各国の事情を踏まえ、あらゆるエネルギー源・技術を活用した、多様かつ現実的なエネルギー・トランジションを支援しているところです。
- その具体策として、昨年、ファイナンス支援や人材育成など、我が国の幅広い支援策を、「アジア・エネルギー・トランジション・イニシアティブ(AETI(エイティ))」として提案いたしました。

2. アジア CCUS ネットワークの設立から 1 年の足取り

- このAETI(エイティ)の一環として、昨年6月、アジア全域でのCO2の回収・有効利用・貯留(CCUS)活用に向けた知見の共有や事業環境整備を目指す国際的な産学官プラットフォームである「アジアCCUSネットワーク」が立ち上げられました。
- 化石燃料の代替を短期的・大規模に進めることが容易でない一方で、大規模なCO2の貯留ポテンシャルを有するアジア地域において、CCUSは脱炭素化の重要な鍵となる技術です。
- アジアCCUSネットワークは、アジア大でのCCUSのネットワークを実現するため、今回、将来ビジョンを具体的に議論し、発表すると聞いています。
- その達成に向け、この一年間、知見共有のためのカンファレンスや、人材育成ワークショップなどを積極的に進めて参りました。
- こうした活動は、ASEAN10カ国にとどまらず、米国・豪州・インド政府にも賛同いただきました。また、国際機関、企業、金融機関、研究機関など250を超える主体にも、賛同いただいております。

3. 我が国の CCUS の経験と事業化に向けた動き

- 我が国のCCUSに関する動きを見ますと、2019年に北海道苫小牧市(とまこまいし)において、30万トンのCO2圧入を達成しました。都市圏近傍で、住民の皆様のご理解を得ながら、安全かつ安心に操業を完了できたことは、世界のCCUSの発展に新たな可能性を切り開けたと考えています。
- この経験を元に、CCSの事業化に本格的に着手します。具体的には、2030年までのCCS事業開始に向けた事業環境整備を政府目標として明確に掲げました。
- 今後、CCUS実施のための法整備、政府支援の設計、技術開発などに関する集中的な議論を深め、

年内にCCS長期ロードマップの最終取りまとめを行うとともに、可能な限り早期に法整備を行う予定です。

4. 日本の国際的な活動

- 我が国としても、「アジア大でのCCUSネットワークの構築」を具体的に進めるべきと考えています。
- そのために、各国間において、CCSに係る政策・法制度・支援策等が可能な限り調和される必要があり、それに向けて今後、定期的に意見交換を行っていくことが大変重要です。
- まさに本日、その1回目として、各国間のパネルディスカッションが行われ、ここで日本の動向も共有されます。
- 我が国は、アジア諸国との間で、具体的なプロジェクトベースでも、CCSの強化にも力をいれていきます。例えばこの8月、JOGMEC(ジョグメック)はインドネシアのプルタミナ社とジャティバラン油田におけるCO2圧入に関する共同研究を開始しました。
- 今年、我が国は、JOGMECを通じて日本企業が行う海外のCCS事業に投資などの支援ができるように、法改正を行いました。今後、ますます海外との共同事業が行われることと、期待しています。
- また、世界に先駆け、2024年に液体CO2の船舶輸送を国内で実証する準備を進めており、将来的には、アジア大での柔軟で効率的なCO2輸送網を築くために、アジアの国との輸送実証も考えたいと思います。
- 他方、CCUS事業を行うためには、各国における国民の皆様の理解が必要不可欠です。苫小牧での経験がある日本として、アジア各国でのCCUS事業への理解増進にも貢献していきます。

5. おわりに

- 「アジアCCUSネットワーク」が掲げるビジョンの実現のためには、みなさまの貢献と協力が必要です。力を合せて、アジア全体の経済成長と脱炭素化の両立を実現しましょう。
- 最後になりますが、本フォーラムにご参加の方々の益々のご活躍とご健勝を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。